

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	マクロ経済学 (Macroeconomics)		
ナンバリングコード	E20401	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 経済学
単位数	4	配当学年 / 開講期	2年 / 前期・後期
必修・選択区分	選択必修: 経営経済学部 コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E005701	クラス名	-
担当教員名	三宅 裕介		
履修上の注意、履修条件	・経済学入門、ミクロ経済学を履修していることが望ましい。 ・学習に対する積極的な姿勢を望みます。受け身ではなく、インプットとアウトプットをコツコツ繰り返し、自身で 思考することが必要です。		
教科書	福田 慎一、照山 博司(2016)『マクロ経済学・入門(第5版)』有斐閣アルマ		
参考文献及び指定図書	二神 孝一、堀 敬一 著『マクロ経済学(第2版)』有斐閣 オリヴィエ・ブランシャール(著)、中泉 真樹(翻訳)、知野 哲朗(翻訳)『ブランシャール マクロ経済学上(第2版)基礎編』東洋経済新報社		
関連科目	ミクロ経済学、経済学入門、経済政策、日本経済論、財政学。		

○基本情報	
授業の目的	① 一国全体、或いは世界全体を考慮するマクロ経済学は、一見非常に難解にそして皆さんの日常とはかけ離れている印象を受けるかも知れません。しかしこう言った無理難題に感じる経済学も基礎的な数式と図によって非常にシンプルにかつ分かり易く理論的に理解する事が可能です。これらを一一つ丁寧に最小限の数学と具体的な事例を交えて優しく説明していきます。30回の講義終了時には少なからず経済学に興味を持って頂ける様工夫を毎回の講義において行っています。 ② マクロ経済学は一見皆さんの生活とはあまり直接関りが無いと思われるかも知れませんが、コンビニに行ったり(財市場・貨幣市場)、バイトをしたり(労働市場)と多くの日常生活の行動が経済学と深く関わっています。それらの身近な事象と専門的な理論を結び付ける橋渡しの役割をします。 ③ 皆さんが今後就職活動をされる時、或いは就職された後においても経済学の知識は非常に役に立ちます。また、公務員試験、中小企業診断士試験、マクロ経済とは何か、なぜ学ぶ必要があるのか、一国経済の消費、投資はどうなっているのか、市場の均衡とは何か、経済政策は政府によってどのようになされているのか、また外国との関係との仕組み等を簡単な数式と図・グラフによってシンプルかつ丁寧に解説していきます。毎回の講義の流れとしては下記の通りです。 ① 今日の講義の重要なポイントをパワーポイントで分かり易く解説。 ② パワポでの理解をより深めるために、板書(ホワイトボード)にて更に詳しく解説。 ③ その日に学んだテーマについて、全体セッションで簡単な意見・質問時間を設ける。 ④ 経済学に必要な基礎的な数学の問題を、グループワークで解く時間を設ける。 ⑤ 全体セッションにて④の答え合わせを皆で行い、今日の学んだ事についておさらいする。 ⑥ 残りの時間で、毎回その日に学んだ事についての確認テストと出席(A～Fを講義中にランダム
授業の概要	
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	①身近な経済事象に関心を持ち、理論的に理解出来る。		20点	
【知識・理解】	②専門用語について自身の言葉で具体的に説明出来る。	30点		
【技能・表現・コミュニケーション】	④専門知識において他の履修者と意見交換が可能。			10点
【思考・判断・創造】	⑤政府が実施している政策について自身の意見を述べる。	40点		

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
①	毎回行う課題テストの評価: 毎回の講義の最後には、その日に学んだ事についての復習のテストを行います。基本的には専門用語を回答する記述式ですが、皆さんが送信直後、すぐに採点をし、100点満点中どれだけ習得できたか、どの問題を間違えたかを即フィードバックします。是非とも復習に役立てて下さい。
②	中間テスト・期末テストを行いますので、毎回の講義をしっかりと受講して下さい。
③	全体セッションにて、その日のテーマに沿った簡単な質問等を行います。また、毎時間行う数学の問題を解く時間の答え合わせ時に、自主的に発言された場合には評価に加点されます。
④	講義の受講態度も重要視します。意欲的にコツコツ取り組んで頂けることを強く望みます。

○その他	
①	講義で使用するパワーポイントは受講生の皆さんの理解度に合わせながら、前日に作成・調整しながら進めていきます。もし、講義速度が速い、或いは簡単すぎると感じた方は、毎回の講義終了後に質問時間を設けますので、自由に質問・意見して下さい。
②	講義中、論理展開が分からない、或いは着いて行けない、また数学の練習問題について中学・高校数学を忘れてしまったという方も大丈夫です。講義終了後の質問時間か、classroom の掲示板への投稿、それが少し恥ずかしい場合は直接メールをして頂いても結構ですし、或いは毎週設けてあるオフィスアワーに直接研究室に質問に来て頂いても結構です。
③	基本的に、全てを与えて貰うという受け身方式の講義ではなく、皆さんが自発的に興味を抱いて取り組んで頂ける様な講義になるように日々工夫しています。その為にも気づいた点は意見して頂けると改善ポイントとなる為有難いです。

## 2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	マクロ経済学 (Macroeconomics) 三宅 裕介	授業コード	E005701
<b>学修内容</b>				
<b>1. マクロ経済学の基礎知識①</b>				
GDP、GNP、NNP、NI について各用語について学ぶ。また付加価値について身近な事例を基に解説し、グロスとネット、ストックとフローの差異に尽いて理解する。ここでは資本減耗(減価償却)という概念も学ぶと共に一年間の国内の付加価値の合計であるフローの概念であるGDPが時系列的に増減していくかを示した割合を示す経済成長率についても一国全体の経済力を示す重要な経済指標であることを示す。				
予習	GDPの概念、三面等価の原則とは何かについて予習する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>2. マクロ経済学の基礎知識②三面等価</b>				
前回学んだGDPについて、①「生産面」②「分配面」③「支出面」のどの方向から眺めても同値になる事を学ぶ。①は前回学んだ通り国内で一年間に生産された付加価値の合計であり②はそれが所得としてどのように配分されるかを示し、③は②で配分された所得をどのように支出するかを順次解説する。				
予習	GDPの概念、三面等価の原則とは何かについて予習する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>3. ①財市場 消費と貯蓄の理論</b>				
ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説等に就いて学ぶ。前回学んだ三面等価に於ける③「支出」について一番大きな割合を占めるのが「消費」であるが、それを示す「消費関数」について詳しく学ぶ。この消費関数には「ケインズ型消費関数(絶対所得仮説)」、行動経済学を組み入れたデューゼンベリーの「相対所得仮説」、モディリアーニの「ライフサイクル仮説」フリードマンの「恒常所得仮説」に就いてそれぞれの特徴を解説する。				
予習	消費関数、消費に関しての前提について予習する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>4. ②財市場 ケインズ型消費関数の基礎</b>				
財市場に於ける45度線モデルの基礎となるケインズ型消費関数について学ぶ。所得に依存せず支出を行う基礎消費と可処分所得に依存して支出を行う消費に於ける限界消費性向の解説を行う。特にここでは限界という概念について一般的なlimitではなくMarginalの意味で経済学では使用する事を学び、これが一年間の可処分所得に対する支出を示す事であることを示す。				
予習	消費関数、消費に関しての前提について予習する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>5. ③財市場 投資理論</b>				
投資は主として企業が生産のを行う財・サービスの購入を示すが、主に設備投資と在庫投資が有り、後者は生産と販売のギャップによるものである事を解説する。また、純投資に資本減耗を加えたものが粗投資でありGDPの30%を占める事を解説する。そして主に企業が行なう投資についての決定要因について利子率と限界効率という概念が必要となることを明確に解説する。				
予習	投資の決定要因、生産性と費用について予習する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>6. ④財市場 総需要関数の導出(1)</b>				
マクロ経済学の理論に於いて、最初に学んだGDPの三面等価に於ける支出は非常に財市場の分析に於いて重要である。マクロ経済学では全てを一国全体で捉える為、経済主体である家計・企業・政府がそれぞれ行う支出の総計を総支出(総需要)と呼ぶ。そして、家計が支出する場合は前回学んだ消費関数を使用し、企業の支出は投資に当たり、政府は財源を税収(所得税・消費税・法人税等)と国債とし、政府支出を行うことを学ぶ。				
予習	総需要関数について、これまでの消費理論、投資理論と合わせて理解する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>7. ⑤財市場 総需要関数の導出(2)</b>				
前回に引き続き、三面等価の支出に当たる総需要関数について詳しく学ぶ。GDPを自身で簡潔な数式を使用して総需要を導出する事を試みる。特にそれぞれの用語、消費(C)は国民所得に依存し、投資(I)は利子率により決定され、均衡予算下に於いては税収と政府支出が一致することを理解する。更に、総需要関数は中学で学んだ一次関数と同様に示す事が可能で在り、切片(基礎消費・投資・政府支出)と傾き(限界消費性向)によって、平面上に正の切片を持つ右上がりの総需要曲線として描く事を示す。				
予習	総需要関数について理解し、数式化出来るようにする。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>8. ⑥財市場 総供給について</b>				
高校までの社会・政治経済等でも学ぶが、経済は需要と供給から成り立っている。マクロ経済学に於いても、前回まで学んだ需要と共に供給の概念を理解する必要がある。前回と同じく一国全体の供給量を示すため、総供給と呼ぶ。これは最初に学んだ三面等価の考え方を使用し、国内で生産された財・サービスは他の企業・家計に売却され、それによって得られた所得は国内在住者にそれぞれ配分される。具体的には労働所得で有ったり、資本所得等で有り、これが三面等価の分配の部分に当たる。つまり、生産と分配はそれぞれ1対1の割合で関係しており、それを平面上に於いて図示すると、原点を				
予習	新古典派の投資理論について予習する。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	マクロ経済学 (Macroeconomics) 三宅 裕介	授業コード	E005701
<b>学修内容</b>				
<b>9. ⑤財市場 45度線分析と均衡</b>				
ここまでで学んだ財市場に於ける総需要と総供給を合わせて、市場について考える。総需要曲線は切片を持つ右上がりの直線であり、総供給曲線は、原点を通る右上がりの45度線の直線である事を理解する。そして、これらの交点が均衡点となり、ここで決定されるGDPが均衡GDPとなることを示す。これから頻繁に出てくるグラフであるが、まず横軸と縦軸が何を示しているかをしっかりと抑える事から始める。また、輸入学問である経済学で頻繁に英語で専門用語が表記されるがそれらも合わせて理解する。				
予習	財市場の均衡について学ぶ。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>10. ⑦財市場 完全雇用GDPとインフレギャップ・デフレギャップ</b>				
前回の講義での財市場の均衡によって導出される均衡GDPは、財市場の視点からのみ見れば均衡しているが、マクロ経済学で扱う他の労働市場を考慮した場合、そこに失業(非自発的御失業)が存在する時には、均衡GDPを導出すること以外に、完全雇用GDPという概念を用いて、それを達成する為には、現在インフレギャップが発生しているのか、或いはデフレギャップが存在するのかを見極める必要性が存在する事を学ぶ。				
予習	完全雇用GDPと均衡GDPの違い、或いはインフレギャップとデフレギャップの差異に就いて考えてみる。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>11. ⑧財市場 財政政策と乗数</b>				
前回学んだインフレギャップ・デフレギャップを基に、それらのギャップを埋める為には政府がどのような政策を執る事が望ましいかについて考える。主な財政政策としては、政府支出、所得税減税が挙げられるが、これらの均衡GDPに対する効果を見る為には乗数と言う概念が必要である事を学ぶ。前述した政策に於いては、それぞれ政府支出乗数、租税乗数を導出する。				
予習	日本銀行とはどのような役割を担っているのか、具体的に学ぶ。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>12. ⑨財市場 財政政策と財源</b>				
前回学んだ財政政策における政府支出には財源が必要となるが、政府の予算制約としての歳入は主に税収(所得税・消費税・法人税・重量税・酒税等)と国債があるが、現在の政府の予算制約に於ける歳入は国債に於ける比率(国債依存度)が高いが、これに関連してプライマリーバランス(歳出がどれくらい比率で税収・国債(新規発行分・償還分)で賄われているかの財政健全性を調べる一つの指標)も学ぶ。つまりプライマリーバランスがプラスであれば、今年度の歳出に対し税収が増加した事を示す。これらの国債発行に関してはバローの中立命題等を用いて、国債発行と償還に関する世代間格差に関する課題を示す。				
予習	政府財源としての租税にはどのような種類のものがあるかを身近な物でいいので考えて置く。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>13. ①貨幣市場 貨幣供給について</b>				
まず、貨幣市場に於ける供給面から触れる。貨幣供給を独占的に行えるのは日本であれば中央銀行となる日本銀行である。最初に日本銀行の大きな役割として、発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行であることを理解し、市中に於ける貨幣量をマネーストックの量の調節(金融政策)によって、物価の安定に伴い安定的かつ持続的な経済成長の達成、そして金融システムの安定化に寄与していることを理解する。				
予習	日本銀行とはどのような役割を担っているのか、具体的に学ぶ。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>14. ②貨幣市場 マネーストックに於ける調節(金融政策)について</b>				
高校までの社会・政治経済・公民の授業で習った方も多いと思うが、物価が持続的に上昇する事をインフレーション、持続的に下落する事をデフレーションと呼ぶが、どちらの現象も日本銀行の大きな役割の一つである物価の安定の視点から見ると好ましくは無い為、これらの物価の安定をする為にマネーストックの調整を行うが、主に3つの方法が存在する事を学ぶ。まず、市中銀行が日本銀行から貨幣を借用したり預金する場合は金利の事を公定歩合と言うが、これを調節する。次に、市中銀行は保有する資金の一定割合を日本銀行に預金を行っているが、この時の預金額の割合が預金準備率で在り、				
予習	身の回りの銀行と日本銀行との関係性や違いについて考える。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>15. ③貨幣市場 マネーストック(マネタリーベース)とハイパワードマネー</b>				
前回学んだ貨幣市場に於ける供給面を示すマネーストックであるが、これらに就いて更に詳しく学んで行く。即財と取引可能である通貨は現金通貨(非金融機関保有現金)と市中銀行要求支払預金(普通・当座)で有り(M1)、これに定期性預金を合わせた物はM2である。マネーストックとはこのM2に譲渡性預金(CD)を合わせた物で構成されている。ハイパワードマネーは前述の非金融機関保有現金と日本銀行に対する預金準備金を合わせた物であり、日本銀行はハイパワードマネーを調節してマネーストックの量を安定化させている。				
予習	マネーストック、ハイパワードマネーについてどのように異なるのかについて学ぶ。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間
<b>16. 中間試験(理解度確認復習テスト)</b>				
講義の前半の内容をどれだけ理解出来たかに就いて、自分自身で確認をし、またテスト送信後には即採点を行い、正答をフィードバックする為、その場で自分自身の理解度が確認可能で在り、復習に役立てることが出来る。それを基に後半の講義の準備を行い、マクロ経済学の講義を全体を見通して理解可能とする。				
予習	中間試験の正答のフィードバックを基に復習を行う。			約2時間
復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。			約2時間

## 2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	マクロ経済学 (Macroeconomics) 三宅 裕介	授業コード	E005701
<b>学修内容</b>				
<b>17. ④貨幣市場 貨幣需要</b>				
前回までは貨幣市場に於ける供給の面に視点を当てたが、本講義では貨幣需要に就いて考察を行う。財・サービスとどれくらい簡潔に交換できるかを示すものに流動性が有るがその流動性をどれだけ好むか否か(流動性選好)によって貨幣の需要が決定される。主には財・サービスを購入する為にどれだけ手元に貨幣を持つかどうかは所得の関数となる取引動機と、資産として貨幣を保有する為の投機的動機(利子率の関数)があるが、これらから貨幣需要が成立する。ここでの資産動機に於いては貨幣に対してコンソリ債を想定し、無限期間インカムゲインを受け取る場合のそれらの現在価値の合計の導出方法				
	予習	普段、皆さんが何の為に貨幣を保有するかを考えて見る。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>18. ⑤貨幣市場 均衡</b>				
では、これまでの講義で貨幣市場に於いて学んできた事を図示しながら解説を行う。ここでは横軸にはGDP、縦軸は利子率を考える。貨幣供給は日本銀行が決定を行う為、利子率には依存せずに決定され、垂直の直線として示される。そして貨幣需要は最初に資産動機を考えると、前回学んだ通り、利子率が低下する程コンソリ債価格は上昇する為、債権を購入せず資産を貨幣で保有する動機が生まれる。従って、資産動機は利子率の減少関数となる為、右下がりの直線で示される。また、取引動機は所得(GDP)に依存する為、所得が高まる程、先程の右下がりの直線が右にシフトする。つまり縦軸と貨幣需				
	予習	貨幣供給、貨幣需要がそれぞれ何に依存して決定されるのかを考えて見る。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>19. ⑥貨幣市場 金融政策</b>				
前回まで学んだ貨幣市場に於いて、需給が一致する均衡点に於いて均衡利子率が決定される。中央銀行である日本銀行が行なう金融政策はマネーストックを調節する。この方法としては主に公定歩合操作、預金準備率操作、公開市場操作が存在する。これら政策に伴うマネーストックの増減によって貨幣供給曲線がシフトし、均衡利子率が変化する。また、右下がりの貨幣需要曲線に於いて、非常に低金利の状態になった場合債券価格が最大値に限りなく近似する為、全ての資産を貨幣で持つ誘因が発生する。従って貨幣需要曲線は水平線となり流動性の罫と呼ばれる。				
	予習	金融政策の種類に就いて考える。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>20. IS-LM分析①</b>				
ここまで財市場と貨幣市場に就いて学んだが、これら二つの市場を同時に考える分析が本講義で学ぶIS-LM分析である。このISは財市場の均衡を表す利子率とGDPの関係を示した物で有り、財市場に於ける三面等価で学んだ分配面から見たGDPと支出面から見たGDPを使用した財市場の均衡条件式がI=Sとして成り立つことから示されている。また、LMは貨幣市場を均衡させる利子率とGDPの組合せを示した曲線を示すが、流動性(liquidity)を示すLとマネーストックを示すMから示されている。横軸にGDP、縦軸に利子率を取ったグラフに於いて IS曲線は右下がり、LM曲線は右上がりで示されこれらの				
	予習	財市場・貨幣市場に於いて図示して見る。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>21. IS-LM分析②</b>				
本講義では、これまで各市場に於いて行った経済政策(財市場では財政政策、貨幣市場では金融政策)に就いて、前回学んだIS-LM分析の枠組みに於いてどのように示すのかを学ぶ。財政政策ではIS曲線がシフト、金融政策はLM曲線がシフトし、各均衡利子率と均衡GDPが変動するが、それらの効果について解説を行う。				
	予習	IS-LM分析で使用する図示が出来る様にして置く。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>22. IS-LM分析③</b>				
本講義では前回学んだ経済政策に於ける財政政策に就いて、政府が財市場のみを考慮して財政支出(公的資本投資)を行う場合、利子率が不変の場合は政府支出乗数分だけGDPが増加するが、そこで貨幣市場均衡も考慮する場合、貨幣市場に於いては超過需要の状態に在る為、利子率を上昇(債券価格を低下)させて、投機的動機を減少させる必要が有る。その為公的資本投資支出後、一旦は乗数に従って大きくGDPが増加するが、貨幣市場均衡の為に利子率が上昇する。これは財市場に於いて投資の減少に繋がる為、この投資に対する投資乗数分だけGDPが減少する。このクラウディング・アウト効				
	予習	経済政策(財政・金融政策)を図で解説出来る様にして置く。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>23. 労働市場①</b>				
3つ目の市場としての労働市場として、完全競争市場下の古典派と下方硬直性を持つケインズ派を学ぶが、古典派ではミクロ的基礎に基づく価格(実質賃金率)変動に伴い均衡へと収束し、完全雇用が達成される。ケインズ派に於ける下方硬直性は、最低賃金法や労働組合による賃金率の下限が設定される事により労働供給曲線に水平部分が発生し、非自発的失業に繋がる。またケインズ派に於いては労働供給は名目賃金率に基付き決定される。価格(実質賃金率)が伸縮的で有るのは長期的とする見方も有り、各理論を超短期で分けて考慮する事も有る。				
	予習	労働市場に於ける理論に就いて考えて見る。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>24. 労働市場②</b>				
企業に於ける生産過程は生産関数に伴い労働と資本を用いて財・サービスの供給を行うが、前回学んだ労働市場に於いて決定されるのがこの均衡労働量で在りこれに伴いGDPが導出される。古典派に於いては価格調整メカニズムにより完全雇用が達成されるが、ケインズ派では非自発的失業が発生しこれを課題として経済政策が行われる。				
	予習	労働市場に於ける2つの考え方の相違を明確化する。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	マクロ経済学 (Macroeconomics) 三宅 裕介	授業コード	E005701
<b>学修内容</b>				
<b>25. 労働市場③</b>				
前回まで学んだ労働市場に於いて、労働需要と供給の具体的な決定方法について学ぶ。労働供給に於いてはミク得御経済学でも学ぶが家計の最適化問題を使用し時間制約の下での効用(余暇時間)最大化を想定する。ここでは名目賃金率が上昇すれば余暇に於ける機会費用も増加し労働供給は上昇する。一方労働需要は企業の理論に於ける利潤最大化行動から決定され実質賃金率と労働の限界生産性が等しくなる所で労働需要量が決定される事を学ぶ。従って基本的に労働供給曲線は右上がりに、労働需要曲線は右下がりとなる事を理解する。				
	予習	労働市場に於ける2つの考え方を図示出来る様にする。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>26. AD-AS分析①</b>				
これまで学んだ財・貨幣(債権)・労働市場に於いて同時に分析を行う為、総需要・総供給曲線を導出する。まずはIS-LM分析に於いては横軸にGDP、縦軸に利子率を取り、財市場・貨幣(債権)市場が同時に均衡する均衡GDPと均衡利子率を導出したが本講義ではこれに労働市場を入れ財・貨幣・労働市場が同時均衡する様なGDPと物価を導出する事を学ぶ。				
	予習	財市場・貨幣(債権)市場に於ける均衡(IS-LM分析)に就いて理解する。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>27. AD-AS分析②</b>				
前回学んだ通り財市場・貨幣(債権)市場に於いてはIS-LM分析により均衡を導出するがここに物価水準を考慮する事によりAD曲線を導出する事を学ぶ。これは貨幣市場に於いて学んだ中央銀行である日本銀行が市中貨幣(マネーストック)を政策に伴い変化させる事に伴い均衡GDP・均衡利子率が変動したが、本講義では物価水準が変動した場合にIS-LM曲線がどのように変化し均衡GDPに於ける影響を与え、それに伴い右下がりのAD曲線が描ける事を学ぶ。				
	予習	マクロ経済学で学ぶ市場に就いて見直しを行う。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>28. AD-AS分析③</b>				
前回講義ではAD曲線に就いて学んだので本講義では労働市場に就いて描いたAS曲線に就いて学ぶ。古典派のケースに於いては常に完全雇用が達成される為その場合に生産される完全GDPは一定となり垂直線で描ける。ケインズ型では労働需要が物価の増加関数となる為物価の上昇と共にGDPも増加する事になる。従ってAS曲線は右上がりとなる事を示す。				
	予習	経済成長理論の種類・源泉について予習する。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>29. オープン・マクロ経済学</b>				
IS-LM分析に海外部門を考慮したマンデル・フレミングモデルを学ぶ。資本移動に伴う為替レート変動により純輸出が変動し、経済政策が均衡GDPにどう影響するかを考える。変動為替相場・固定為替相場との違いについても学ぶ。				
	予習	オープン・マクロ経済について予習する。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>30. まとめ</b>				
これまでの授業のまとめをします。				
	予習	マクロ経済学全項目について予習をする。		約2時間
	復習	講義の最後に行う課題テストにおいて、フィードバックした回答を基に復習する。		約2時間
<b>31. 期末試験</b>				
試験時間は60分で、計算問題を必ず1つは出題します。				
	予習			約2時間
	復習			約2時間
<b>32.</b>				
	予習			約2時間
	復習			約2時間